

令和7年度学校関係者評価報告書

渋谷ファッション&アート専門学校
学校関係者評価委員会

令和7年度学校関係者評価について、報告いたします。

1. 学校関係者評価委員

布矢 千春（関連業界等関係者） （株）フォルトナボックス
ドレスメーカー学院前委員長、ハリウッド大学院大学教授
西川 陽子（関連業界等関係者） フリーランスデザイナー、武蔵野美術大学通信教育課程元講師
金廣 明夫（関連業界等関係者） （一社）日本住宅リフォーム産業協会（JERCO）理事・広報部長
住宅リフォームコンサルタント
宇都宮 千尋（卒業生） 田中千代ファッションカレッジ元講師
向山 純一（教育に関し知見を有する者） 学校法人神田女学園 理事

2. 学校関係者評価委員会開催状況

令和7年度第一回学校関係者評価委員会

開催日時 令和7年11月14日（金）13:30～15:00
開催場所 渋谷ファッション&アート専門学校2階 会議室
出席者 宇都宮委員、金廣委員、西川委員、布矢委員、向山委員
志賀校長、高崎副校長、植松事務長、吉田学務課長
議案 学校関係者評価委員会設置目的
委員長選任
令和7年度学校運営について
令和7年度学校関係者評価委員会開催スケジュール

令和7年度第二回学校関係者評価委員会

開催日時 令和8年5月15日（金）13:30～15:00
開催場所 渋谷ファッション&アート専門学校2階 千代ギャラリー
出席者 宇都宮委員、金廣委員、西川委員、布矢委員、向山委員長
志賀校長、高崎副校長、植松事務長、吉田学務課長
議案 令和7年度自己点検・評価報告書の審議及び評価
評価基準 職業教育評価機構基準を参考に実施

3. 総括

学校関係者評価委員会では、学校より提出された自己点検・評価報告書について審議を行い、本校が建学の精神および教育理念に基づき、服飾・文化・建築の各分野において実践的かつ創造的な人材育成に取り組んでいることを確認した。

特に、少人数教育による丁寧な指導、基礎力を重視した教育課程、課程横断型の学び、地域・企業等との連携による実践教育については高く評価された。また、学生アンケート結果や卒業後の進路実績からも、教育活動について一定の成果が認められる。

一方で、服飾専門課程および建築専門課程における進級率・退学率については課題が確認された。特に、体調不良、学習習慣、日本語力、経済状況等、多様な背景を持つ学生への支援体制の更なる充実が必要であるとの意見があった。また、教育理念や育成人材像をカリキュラムへ体系的に落とし込み、教育成果や改善プロセスを可視化することが求められた。

加えて、以下の事項について継続的改善が必要であると確認された。

- * 成績評価異議申立てに関する組織的仕組みの整備
- * FD・SD 活動の組織的实施と記録化
- * 教職員研修体制の強化
- * 内部監査体制の整備
- * 広報活動および SNS 活用の見直し
- * 第三者評価受審を見据えたエビデンス管理体制の構築

特に第三者評価への対応については、現時点で不足している規程や記録類について段階的整備を進めること、既存の取組についても実施記録を残し、学校全体で共有する体制づくりが重要であるとの助言があった。

総じて、本校は教育理念に基づいた誠実な学校運営を行っているとは評価できる。一方で、教育活動・組織運営・内部質保証を「属人的運営」から「組織的運営」へ発展させる段階にあり、今後は規程整備、記録化、可視化を通じて内部質保証体制を強化していくことが期待される。

4. 評価項目別意見

領域Ⅰ 専修学校専門課程の目的および学修成果

評価できる点

- * 建学の精神および田中千代の教育理念に基づいた教育方針が明確である。
- * 学生アンケートからは高い学修満足度が確認された。
- * 卒業後の進学・就職実績について一定の成果が認められる。

改善が望まれる点

- * 進級率・退学率について改善が必要である。
- * 特に休学後の復学支援や留学生支援体制の強化が求められる。
- * 学校理念と教育課程の関係性を、より可視化して示すことが望ましい。

学校への助言

- * 数値結果のみではなく、学校としてどのような支援・改善努力を行ったかを記載することが重要である。
- * 教育理念、人材育成像、カリキュラム、教育成果の関連性を整理し、マトリックス等で可視化するとよい。その成果が学生へ浸透していくことが望まれる。

領域Ⅱ 教育課程および教育方法

評価できる点

- * 実践的かつ段階的な教育課程が整備されている。
- * 服飾・文化（アート）・建築の3分野において、共通して求められる「クリエイティブ力」を重視し、独自性のある教育内容が展開されている。
- * シラバス等による学生への周知が適切に行われている。

改善が望まれる点

- * 成績評価に関する異議申立て制度の規程化が未整備である。
- * 教育課程編成方針等について、組織的文書整備が求められる。

学校への助言

- * 異議申立て制度については、厳格な制度設計よりも、問い合わせ窓口や手順を明確化し、学内共有することが重要である。

領域Ⅲ 教育上の基本となる組織

評価できる点

- * 学校運営会議等が定期的に開催されている。
- * 会議記録共有など情報共有体制が構築されている。
- * 法令に基づく組織運営が適切に行われている。

改善が望まれる点

- * SD活動について、計画的・組織的実施の充実が望まれる。

学校への助言

- * 小規模校である利点を活かしつつ、デジタルツール等を活用した情報共有体制の強化を進め、組織運営の質を高めていくことに期待する。

領域Ⅳ 学修環境

評価できる点

- * ICT環境や施設設備の整備・維持管理が適切に行われている。
- * 学生相談体制や留学生支援体制について、個人面談の実施等一定の取組が認められる。

改善が望まれる点

- * バリアフリー環境について改善余地がある。

学校への助言

- * 現状認識を正確に記載した上で、施設上の制約や今後の改善計画を明示することが望ましい。

領域Ⅴ 学生定員管理および経営管理

評価できる点

- * ガバナンス体制の見直しや法令対応が進められている。
- * 財務情報公開や理事会運営が適切に実施されている。

改善が望まれる点

- * 定員充足率の改善が必要である。
- * 内部監査体制の整備が求められる。

学校への助言

- * SNS を含めた広報活動の見直しが重要である。
- * 卒業生実績の可視化が募集活動に大きく寄与する。
- * 建築課程については業界との継続的連携構築が期待される。

領域Ⅵ 内部質保証

評価できる点

- * 自己点検・評価を継続的に実施している。
- * 学校関係者評価委員会を開催し、公表も行っている。

改善が望まれる点

- * FD・SD 活動の組織的实施と記録化が必要である。
- * 教員採用・昇任基準の明文化が求められる。
- * 内部質保証に関する PDCA サイクルの体系化が必要である。

学校への助言

- * 教員研修については、小規模でも実施可能な内容から段階的に取り組むことが望ましい。
- * 第三者評価受審を見据え、エビデンス保存体制を整備する必要がある。

5. 学校関係者評価委員会からの総合意見

本校は、建学の精神を基盤とし、学生一人ひとりに寄り添った教育活動を展開していることが確認された。特に、少人数教育による丁寧な指導と創造性を重視した教育は、本校の大きな特色である。

今後は、教育課程編成委員会の充実や外部評価の活用を通じて、社会や業界ニーズの変化に柔軟に対応し教育の質の向上を目指すとともに、教育活動や支援内容について「実施していること」を規程・記録・データとして整理し、組織的に運用することが重要である。第三者評価を見据え、内部質保証体制の更なる充実と、教育改善サイクルの定着を期待する。

以上。